

ガボン金環皆既日食速報～3月29日のペイリービーズ～

大越 治

ガボン日食について初めて日食情報に記事が出たのは、1984年 版4 でした。スカイアンドテレスコープの訳文の最後に、次の日食はガボン、と小さく出ていたのを覚えておられると思います。この時のアメリカ金環食に曇られた私たちは、仇討ちはガボンで、と言いついたものです。そして、84年11月のニューギニア・ニューカレドニア日食に出かけた仲間にも、次の日食はガボンで、と言う人が現われました。しかし、ハレー彗星さわぎなどのために準備の出足は遅れました。「仕事をやめる覚悟で行く、という人は名乗り出て欲しい」と呼びかけたのは、86年9月23日の日食勉強会でした。ガボンはそれほど日本から遠かったのです。

12人の観測隊プラス添乗員の13名は、約30時間の旅をして、ガボンのポール・ジャンティル空港に降り立ちました。入国の際に機材を没収される恐れが強かったのですが、日本大使館の協力を得て、無事に入国。宿泊はノボルテというホテルです。翌日は観測地下見の予定だったのですが、ホテルの位置を確かめてみると、どうやら日食帯に極めて近い、いや、日食帯の中にあるようなのです。あらかじめ現地のエージェントに日食地図を送ってあったとはいえ、幅が600mくらいの日食帯の中にホテルがあるなんて、何という幸運でしょうか。

前日28日のリハーサルは快晴で、真上から照りつける太陽に焼かれ、観測隊員たちはみるまに黒くなって行きます。アメリカ・イタリア・フランスなどからの観測隊との間での話もはずみずみ。観測地はホテルの駐車場のはずれ。目の前の入江は真白な砂とつながれたヨット。対岸はマンダロープの緑の森。明日の日食がいやでも楽しみになってきます。

日食当日の29日。昨日と違って一面の雲。少し様子を見てから機材をセットします。スコールが来そうに思えます。現地時刻の13時すぎ、第一接食は雲の中です。ピント合せもままなりません。しかし、空はかなり明るくなって来ました。そして待つこと40分。欠けた太陽が見え始めました。低層のかたまった雲は速く動いて行きます。上層にも雲がかかっています。雲を通して太陽がどンドン欠けて行くのが見えます。部分食を撮る人は、露出の補正が大変です。そして14時半。上層の雲は太陽のまわりだけ薄くなっています。低層の雲も太陽から離れていきます。あたりはかなり暗くなっています。太陽の欠け方は、皆既の時と明らかに違い

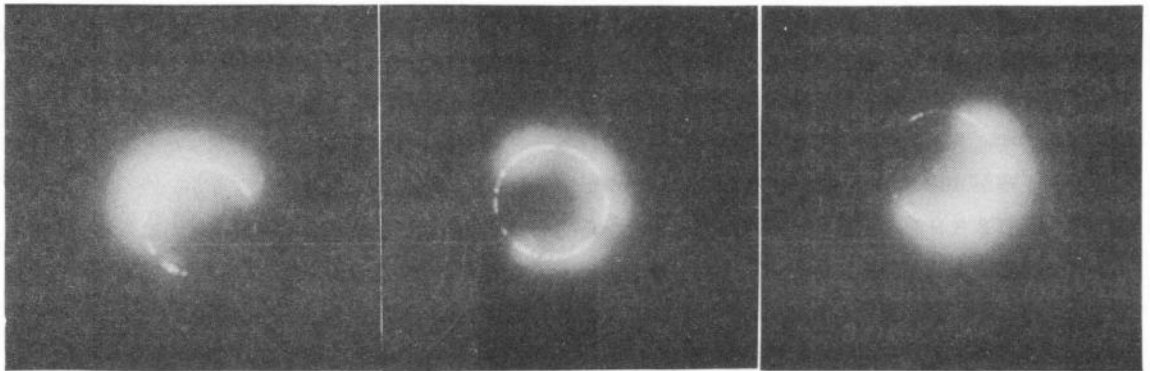
ます。明るい細い太陽の両端がツツと上下にまわり込んで、それがブツブツと切れました。ペイリービーズです。双眼鏡の視野の中で、ビーズの形が刻々と変化して行きます。まさに、太陽の前を月が横切っている様子が実感されるながめです。予報では約0.3秒の皆既食でしたが、ペイリービーズは約7.5秒間続きました。

観測が終わった夜、現地でただ2人の日本人（お二人とも、フランスの方とイギリスの方の奥様です。ガボンには首都に大使館員しか日本人がいないという情報でした）に夕食にまねいていただき、大変楽しい時をすごしました。

また、首都のリーブルビルに戻ってからは、厚生大臣で大統領特別顧問のガシッタ博士との会見、テレビ出演、日本大使館訪問など、忙しい中にも普段ではできない、いろいろな経験をすることができました。

なお、日本大使館の方からうかがったところによると、雨期で良かったとのこと。雨期の雨は夜に降って、日中はからっと晴れることが多いが、乾期は雨が降らないだけで、どんより曇る日が続くということでした。

日食でもなければ二度と訪れる事はないだろう国ですが、できればもう一度行ってみたい。すばらしい思い出を作ってくれた国でした。現在、私たちは報告書を作る準備をしています。いろいろな成果が述べられることと思います。お楽しみに。



写真：400 mm F 8 1/250 秒 モータードライブ連続撮影